



置き去りにされた時間が
私の中で動き出す

月と雷

tsuki to kaminari

初音映莉子 高良健吾

藤井武美 黒田大輔 市川由衣 村上 淳 木場勝己

草刈民代

原作 角田光代(中公文庫) 監督 安藤 尋 脚本 本調有香 音楽 大友良英

製作 東映ビデオ 博報堂DYミュージック&ピクチャーズ エー・チーム 日本出版販売 パラダイス・カフェ

制作プロダクション アグン・インク 配給 スールキートス © 2012 角田光代/中央公論新社 © 2017 『月と雷』製作委員会

R15+

www.tsukitokaminari.com



『八日目の蟬』『紙の月』直木賞作家・角田光代の傑作が待望の映画化

あてもないけど、生きていく。

ふつうの人間関係を築けない大人たちがその意味を探し続ける切なく孤独な旅——。



あたしはこれから普通の家庭を築き、まっとうな生活を重ねていく。結婚を控え、そう考えていた泰子の前に現れた、かつて半年間だけ一緒に暮らした父の愛人の息子、智。20年前、愛人・直子と智が転がり込んできたことで、泰子の家族は壊れたはずだった。根無し草のまま大人になった智は、ふたたび泰子の人生を無邪気にかき回し始める。「邪魔しないであたしの人生」、そう普通の幸せを願っているはずなのに……。

泰子は智とともに自分の母親、異父妹、そして智の母・直子を訪ねて行くことで、平板だった自分の人生が立ちどころに変わって行くのに気づき始める。



家族という幻想を問い直す、角田光代の傑作長編『月と雷』が映画化。 心の奥深くで共鳴せずにはいられない、珠玉の人間ドラマが誕生した。

『対岸の彼女』『八日目の蝉』『紙の月』など、現代女性の「人生の選択」を描いた小説の数々が絶大な支持を受けている直木賞作家・角田光代。人と出会うこと、そして人を受け入れることで、人生が予想もしない方向に転がっていく様を描いた『月と雷』は、角田文学の真骨頂と評される。この名作を、『海を感じる時』の安藤尋監督が、『人のセックスを笑うな』の脚本家・本調有香と『blue』以来のタッグを組み、繊細かつ力強くスクリーンに蘇らせる。主演は『終戦のエンペラー』で華々しくハリウッドデビューした初音映莉子と、『横道世之介』『きみはいい子』などで日本を代表する若手俳優の地位を確立した高良健吾。さらに『Shall weダンス?』『終の信託』の草刈民代が、自由奔放のようでありながら深い孤独を漂わせる女性を演じ、新境地を見せている。

月と雷

tsuki to kaminari

初音映莉子 高良健吾

藤井武美 黒田大輔 市川由衣 村上淳 木場勝己
草刈民代

原作 角田光代(中公文庫) 監督 安藤尋 脚本 本調有香 音楽 大友良英

原作・角田光代 コメント

映画では、登場する人物のひとりひとり、みんな、断然、小説よりもすてきな人だ。それは生身の人が演じているからかもしれない。俳優さんと女優さんが、登場人物たちの不器用な時間を、ていねいに真摯に生ききってくれているからかもしれない。書いていて嫌いだっただけでも、映画で見たらみんな好きだ。みんないいよ。

製作 関宮登良松 村田嘉邦 小笠原明男 小松賢志 高本徳昭 エグゼクティブプロデューサー 加藤和夫 村上比呂夫 プロデューサー 川崎 浩 宮崎 大 撮影 鈴木一博 照明 中西克之
録音 岩倉雅之 美術 林千奈 編集 蛭田智子 スタylist 小倉久乃 ヘアメイク 酒井夢月 スチール 土屋久美子 助監督 石井晋 協力プロデューサー 田坂公章 本島章雄
製作 東映ビデオ 博報堂DYミュージック&ピクチャーズ エー・チーム 日本出版販売 ハラダイス・カフェ 制作プロダクション アグン・インク 配給 スールキートス
© 2012 角田光代/中央公論新社 © 2017 『月と雷』製作委員会 @tsukitokaminari f https://www.facebook.com/tsukitokaminari/ www.tsukitokaminari.com

10月7日[土]全国ロードショー

特別鑑賞券絶賛発売中! ¥1,400(税込) | 当日一般¥1,800の処 |
劇場窓口にてお買い求めの方に限り、オリジナルポストカードをプレゼント!(数量限定)*一部劇場を除く

新宿駅東口 伊勢丹メンズ館隣 B1F
〒デアトルシネマグループ
デアトル新宿
03 (3352) 1846 www.ttcg.jp

梅田芸術劇場斜め前 梅田ロフト B1F
〒デアトルシネマグループ
デアトル梅田
06 (6359) 1080 www.ttcg.jp